長期集団宿泊活動の手引

【実践編】

Vol.2

平成 30 年５月

広島県教育委員会

長期集団宿泊活動の手引【実践編】Vol.2

Ⅰ　学校の取組事例

（１）自尊感情を高める
　　○　庄原市立庄原小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

（２）思いやりの心を育む
　　○　府中市立旭小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

（３）社会への参画意識を高める
　　○　府中町立府中北小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

（４）コミュニケーション能力を育成する
　　○　呉市立蒲刈・下蒲刈小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

（５）地域を理解し，郷土を愛する心を育む
　　○　世羅町立甲山・せらひがし小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・13

（６）地域を理解し，郷土を愛する心を育む
　　○　三次市立三和小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

Ⅱ　市町教育委員会の取組事例

（１）安全体制を一層充実させるための教育委員会の指導の工夫
　　○　坂町教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

自尊感情を高める

庄原市立庄原小学校　校長名：西田　早苗【施設泊】国立三瓶青少年交流の家

自分に自信をつける体験活動の評価の工夫

１　「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

庄原小学校では，自ら課題を見付け，主体的に学び，よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに，課題の解決や探究活動に主体的に取り組む態度を育て，自己の生き方を考えることができるようにする児童を育てていきたいと考えています。

そのために，横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して，課題を発見・設定する力や知識を活用する力を高める場を設け，自ら思考し，追究することができるようにしています。

児童には，目指すべき学びの姿として，「生きた知識」「課題を見つけ追究する力」「相手に伝える力」「共に力を合わせて活動する力」「自らの学びへの自信」の５つの視点を示し，児童とともに，ルーブリックを作成し，児童の自己評価力を高めていこうとしています。

その考え方を踏まえ，今回の宿泊体験活動を計画しました。

○庄原小学校「山・海・島」体験活動での重点

②課題を見つけ追究する力	④共に力を合わせて活動する力

これまでに学んできたことへの自信を高めるために，「山・海・島」体験活動においては，児童が主体的に学びを生かせる場を設定し，「ゆめかなシート」を活用し，現在と将来の自分の学びの姿をイメージさせて，形成的な評価を行っています。

また，新たな学びに気付かせるために，総合的な学習の時間と教科等との関連を図ったカリキュラム「ゆめかな学習」の単元開発で培ったノウハウを生かしたプログラムとしています。

２　「山・海・島」体験活動の概要

（１）目的

○班の友達と協力し，自分の役割に責任をもって取り組む。【共に力を合わせ活動する力】

○自然の素晴らしさを感じ，自然の中で自分なりの課題を見つけ進んで活動する。【課題を見つけ追究する力】

○集団生活のルールを守る。

（２）３泊４日の主な内容

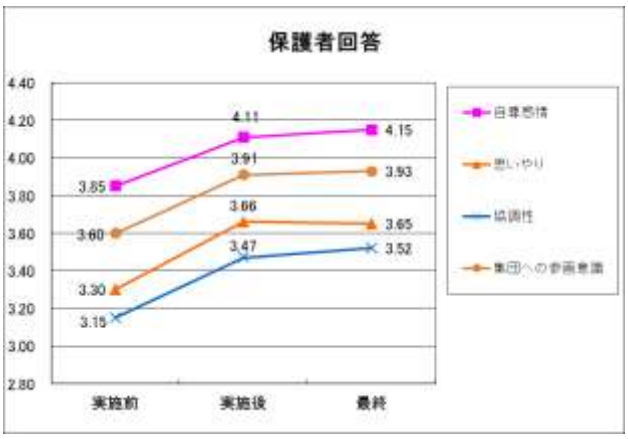
	午前	午後	夜
１日目	入所式	人間関係づくりプログラム	カプラ
２日目	男三瓶登山	男三瓶登山	天体観察
３日目	家族への手紙	野外炊飯　話し合い	ファイヤーストーム
４日目	勾玉づくり	退所式	

３　体験活動の指導の工夫

	事前学習	体験活動当日	事後学習
	目指すべき学びの姿の明確化	**体験活動における「ゆめかなシート」の活用**	**保護者による評価**
ねらい	○過去と現在と未来とを比較させることで，自己評価をする力を高める。	○ルーブリックの取組で育った自己評価力を体験活動で活用し，評価についての実践力を高めることを目指す。	○自ら思考し，追究する力を高める視点で相互評価を取り入れて，児童自身の成長を実感させる。 ○山海島体験活動で育った資質・能力の確実な定着を目指す。
活動内容	○ルーブリックの作成・活用 ○今の姿と体験活動後の姿を「ゆめかなシート」に書き込む。 ○保護者の願い（期待する姿・思い）を事前に手紙に書いてい	○課題・ミッション・ゴールを書いた「ゆめかな」シートを活用した話し合い活動 ○ポイントとなる活動での話し合い活動 ○１日の活動を振り返る。（しおりに振り返りを書く）	○個人懇談での教員の説明 ○児童による保護者への説明 ○保護者からのコメント
指導のポイントや工夫	○「課題を見つけ追究する力」「共に力を合わせて活動する力」の視点で，ルーブリックを作成する。 ○その際，前年度のレベル２，３を，今年度の１として，児童に考えさせることによって，内容を向上させる。 ○保護者の願い（期待する姿・思い）を事前に手紙に書いてもらい，その願いを知ることで，活動への意欲・目指す姿を明確にさせる。	○直面する課題を乗り越えるために，これまでの経験などを関連付けて考えさせる。 ○野外炊飯の際，課題・ミッション・ゴールを書いた「ゆめかなシート」を活用し，課題解決を図るための方法と，この課題を乗り越えることで身につく力を明らかにする。 ○身についた力を「ゆめかなシート」に記入したり，友達から評価を書き加えたりする。自分で振り返ったり，グループで共有化させたりする。	○児童自身の振り返りと他者評価を比較したり，関連付けたりして，「共に力を合わせて活動する力」の具体を，一人一人の児童に明らかにさせる。 ○児童の中でものの見方や考え方が変わったこと，自己の生き方につなげて考えようとしたことなどについて，視点を明らかにしてコメントをもらうことで，育てたい児童の姿に近づけていく。 ○作成をしたルーブリックに基づいて，再度，自分の姿を振り返らせる。

４　取組による成果

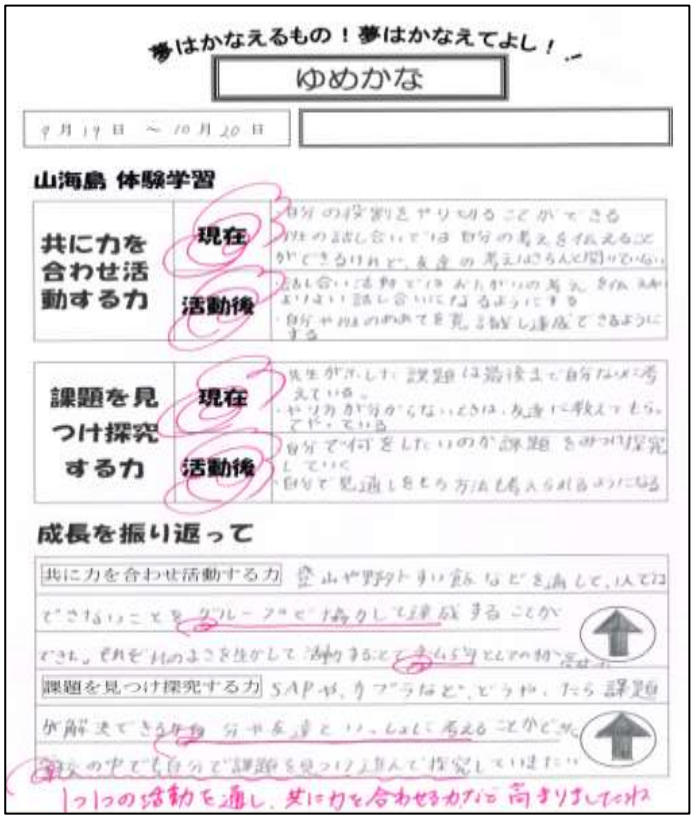
（１）データによる児童の変容



○　児童変容のアンケートでは，児童回答と保護者回答ともに，実施前に比べて実施後の数値が高くなっています。特に児童回答では，「集団への参画意識」が 0.42 ポイント，保護者回答では，「自尊感情」が 0.26 ポイント向上しています。

（２）児童の感想

体験活動中の「ゆめかなシート」



目指すべき学びの姿を示し学級に掲示しているルーブリック

学年に書いた「ゆめかなシート」

思いやりの心を育む

府中市立旭小学校　校長名：武田　義治　【施設泊】国立吉備青少年自然の家

男女が協働して目標を達成する体験活動

１　「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

集団で何かをする時に，男女の違いを理由に協力ができず，また同じ友達との関わりが多く人間関係が固定化し，相手のことを考えることが十分にできないという学級の課題を，児童自身が改善するために，課題に向き合い，日常の学校生活や授業において，改善を図ろうとしています。

「山・海・島」体験活動では，関わり合いを重視したプログラムを設定するとともに，子ども達に活動目標や時間設定についても話し合い活動で考えさせるなど，子供たちに任せた活動となるように意図的に仕組みました。

このような取組によって，児童自らが体験活動での様々な課題をクリアしようと活動することを通じて，友達と協力する必然性や一人一人の役割などを意識して取り組み，そのことが男女関係なく協力することでこれまで味わったことがないような達成感を感じられるようにしました。

２　「山・海・島」体験活動の概要

（１）目的

様々なことに挑戦することを通じて，互いに協力し合うことの大切さを感じることができる。

（２）３泊４日の主な内容

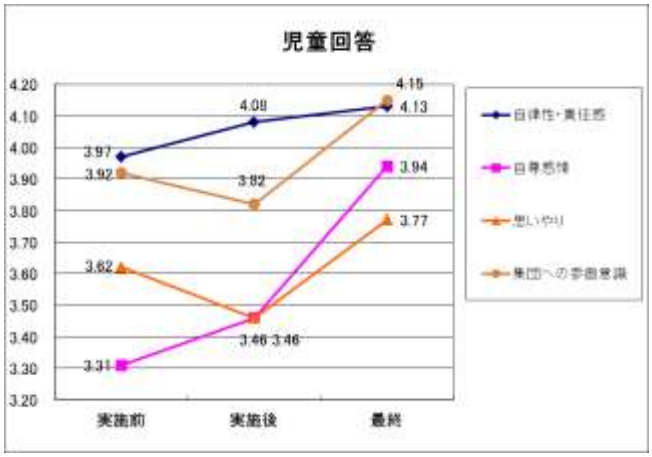
	午前	午後	夜
１日目	入所式	人間関係プログラム カプラ	キャンプファイヤーに向けた スタンツ練習
２日目	オリエンテーリング	野外炊飯	ナイトハイク
３日目	湖でのカッター	イニシアチブゲーム 野外炊飯	キャンプファイヤー
４日目	焼板工作	奉仕作業 退所式	

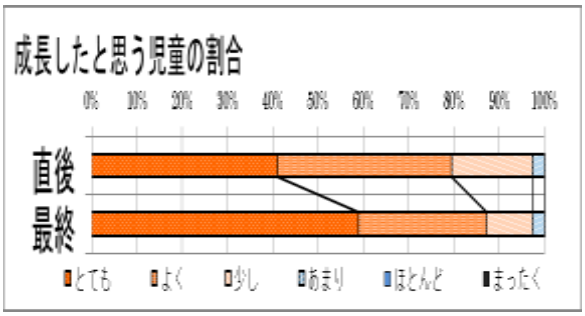
３　体験活動の指導の工夫

	事前学習	体験活動当日	事後学習
	男女の関わりを生み出すプログラムづくり	**プログラム実施中の話し合い活動**	**学校に戻ってからの取組との関連**
ねらい	○男女が協力しながら取り組むことにつながるプログラムを考えさせて計画することによって，学級の課題を解決しようとする意欲や態度を養う。	○プログラム途中でも，相手の立場に立って考えたり，グループで話し合ったりする必要がある場合には，児童自らが場を設定したり，要求したりできるような姿を目指す。	○体験活動での学びを，学校での活動で発揮させ，他者を思いやる心の定着を目指す。
活動内容	○学級活動でのプログラムづくり	○体験活動中の全ての活動における話し合い	○音楽発表会で発表したリズムクラッピング ○「相互理解・寛容」，「思いやり」等の価値項目での道徳授業との関連付け ○授業における話し合い活動の日常化
指導のポイントや工夫	○自己決定をさせる際には，子供たちに問いを立てさせ，「自分たちはどうしたいのか。」「そうなるためには，どのような方法があるのか」を話し合わせる。 ○困った時には，教師が答えを言うのではなく，これまでの学びの記録を見させるようにする。 ○話し合いがうまくいっていなくても敢えて助言しない。自分達でどんな話し合い活動がよいのか気付かせる。	○児童同士が困ったような状況があれば，自分たちでそのことを考えるような時間を設けたり，教職員に対して要求したりできることを事前に指導する。 ○徐々に児童が自発的に行動できるようにしていくために，はじめは教員が具体を示すことで理解を促し，具体の姿をとらえて価値づけを行うようにする。 ○プログラムを優先させるのではなく，児童の成長のために必要なことを優先するよう，受入施設との連携をとっておく。	○男女が協力できるようになったことを，具体の姿で表現させるため，音楽発表会でのリズムクラッピングを計画する。 ○全員が成功するためには，どのような準備が，どのくらいの期間で必要かを考慮して，練習計画を立てさせる。 ○途中でうまく行かない状況になった時のことを想起できるように，体験活動中の出来事をキーワード化して，児童と共有しておく。

４　取組による成果

（１）データによる児童の変容





○　児童回答のアンケートにおいて，実施前に比べて最終（実施後１か月後）の数値が高くなっています。また，約 97％の児童が「体験活動を通じて成長した」と，自分自身の成長を実感しています。

（２）児童の感想

・　一人一人の役割を自覚し，協力しなければ解決できないことに気付きました。これまでは，自分の役割はあまり意識していなかったけど，一人一人が役割を果たさないといけないことに気付きました。
・　一つ一つの課題を乗り越えていく中で，これまではできていなかった男女関係なく助け合うということが，できていっていることに気付きました。どうしてできるようになったのかとみんなで話し合うと，「協力した方がいろんなことができる。」「全力を出し切ったからこそ，協力した方が楽しいことに気付いた」という意見が出てきました。
・　先生に言われたのではなくて，自分たちだけでできるようになったことが自信になりました。
・　リーダーとしての自覚が身につきました。「自分は前に出るタイプでなかったが，今回，班長になったことで，みんなを引っ張ることの難しさや人前で話すことの大変さがわかりました。でも，やりきれたことで自信につながり，児童会役員選挙の推薦者という役割もしっかりできました。
・　体験活動の中で，一人一人得意なことや苦手なことはあるが，班で助け合い，補い合えば，困難も乗りこえることができるとわかりました。今まで知らなかった，気づかなかった友だちの良さに気付きました。
・　自分の役割をしっかり果たさないと，班としてうまくいかないことが分かりました。次にうまくやるため，もう一度それぞれの役割を確認し，それを実行したらうまくいきました。
・　もめ事がある時，いつも人のせいにしていたし，「何でいつも自分ばっかり」と思っていました。でも先生に，「何でいつもあなたの班ばかり・・・。自分のこともふり返ってごらん」と言われて気付きました。自分も言い方がきついし，相手のことを考えていないと感じたので，それから，話し合う時，何かを決める時は，まず相手の意見を聞くようにしています。

社会への参画意識を高める

府中町立府中北小学校　校長名：尾久葉　則子【施設泊】広島市似島臨海少年自然の家

防災教育と体験活動の結びつき

１　「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

府中北小学校では，日常の学校生活において，周囲の友だちや異なる学年の児童と関わることを通して，ソーシャルスキルを身に付けるとともに，自分や他者を大切にする心を育もうとしています。

今回の体験活動では，日常で身に付けているソーシャルスキルを実際に活用するとともに，他者を捉える視点として，家族や友だちといった直接関係のある人だけでなく，地域の人々まで対象を広げて他者を大切にする心を育てることで，社会への参画意識を育成しようとしました。また，事前・事中・事後の学習を関連付けて，体験での学びを児童一人一人に振り返らせ，次の活動の計画を子供たち自身が考えることで，児童の主体的な活動とするようにしました。

２　「山・海・島」体験活動の概要

（１）目的

〇自然に浸る体験を通して，情操を培い，自然を愛する心情を育てる。

〇自分たちで考え，計画・実践する活動を通して，自主的な態度を育てる。

〇寝食を共にする生活を通して，望ましい集団生活や互いを思いやる大切さを学ばせ，ふれあいを深める。

〇夜間の避難訓練や炊き出し体験をすることを通して，災害時の行動について考えを深める。

（２）「自ら育つ野外活動～自主・協力・友情・命～」３泊４日体験活動の主な内容

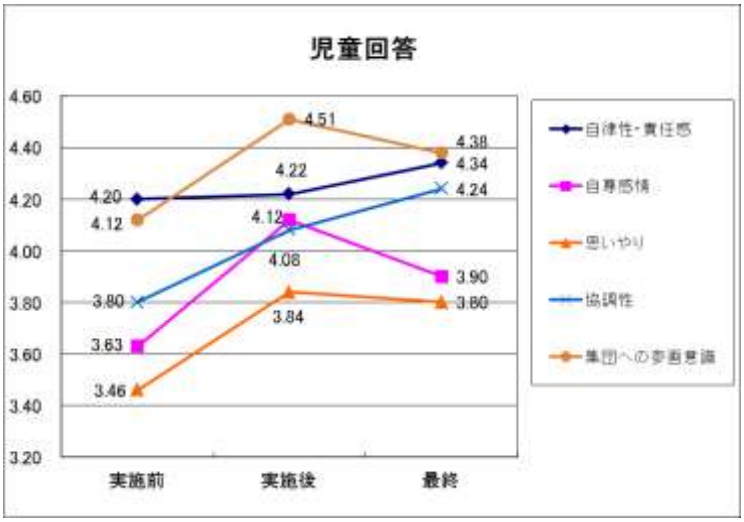
	午前	午後	夜
１日目	オリエンテーション	海洋学習事前学習 箸・コップ作り	夜の避難訓練
２日目	海洋学習	似島遺構巡り 野外炊飯（防災学習）	ロープワーク・食器づくり 家族へのメッセージ
３日目	野外炊飯（防災学習） バームクーヘンづくり	海水プールでの遊泳	キャンプファイヤー
４日目	野外炊飯（防災学習）	帰校式	

３　体験活動の指導の工夫

	日常的な活動	体験活動当日	事後学習
	ピアサポート 総合的な学習の時間 特別活動	**防災教育を取り入れた 山・海・島体験活動**	**体験活動後の取組 避難所宿泊体験 非常時炊き出し訓練 命を守る防災フェスタ**
ねらい	○ソーシャルスキルの育成を目指し，ピアサポート活動で継続してスキルを活用していく。 ○同クラス・同学年の集団だけでなく，異年齢集団にまで視野を拡大させて他者を捉え，大切にしようとする心の育成を目指す。 ○自他の命を守るために，自分たちにできることを考え実行する。	○ピアサポート活動で育ったソーシャルスキルを体験活動で活用し，実践力を高めることを目指す。 ○自分たちで考え，計画・実践する活動を通して，自主的な態度を育てる。 ○社会の一員であることへの自覚と役割を果たす意欲を高める。	○ピアサポート活動や山・海島体験活動で育った資質・能力の確実な定着を目指す。 ○体験活動で高めたソーシャルスキルの実践力を，地域の方とのかかわりの中で発揮させるとともに，多様な他者を大切にする心の定着を目指す。 ○社会や集団へ積極的に参画し協働しようとする態度を養う。
活動内容	○ピアサポート ○総合的な学習の時間や特別活動における防災の学習	○夜の避難訓練 ○非常時の食事づくり ○ロープワーク ○非常時の食器づくり	○学校が避難所になった時の防災避難所宿泊体験会 ○地域住民との避難訓練 ○非常時の炊き出し体験 ○学びの発信
指導のポイントや工夫	○体験活動の取組を充実させるために，学校教育目標，学年・学級目標と児童の実態に応じた個々の目標を関連させ設定させる。 ○特別活動における学校行事の見通しを児童とともに共有し，活動内容の設定に参画させる。 ○各教科等を関連させたパフォーマンス課題を児童と共に設定し，学びの必然性を高める。	○寝食を共にする活動や簡単な野外炊飯等を繰り返し行うことで，児童自らに気づかせよりよい活動へと発展させる。 ○自分たちが設定しためあてを達成させたり各教科等を関連させた課題を解決したりするために，実行委員会を立ち上げ，計画を立て，体験活動へとつなげる。 ○設定したパフォーマンス課題を継続して意識させ，体験活動をしたり活動を振り返らせたりすることで，達成感や自己有用感を持たせる。	○「山・海・島」体験活動で発見した課題を解決するために，さらなる体験活動を計画し，繰り返し実行させる。 ○地域の専門家を講師に招き，体験活動の価値付けを行ったり，新たな知識を獲得したりさせる。 ○ピア学年・保護者・地域の方等に学びを発信する場を設定し，ふれあう中で，自分たちが学んできたことのよさを実感させたり今後の学習への意欲を持たせたりする。

４　取組による成果

（１）データによる児童の変容



○　児童回答のアンケートが，県平均よりも高い数値で推移しています。全てのアンケート項目において実施前に比べ１か月後の数値が高くなっています。特に「集団への参画意識」に関する項目は，実施前と最終（体験活動１か月後）を比較すると 0.31ﾎﾟｲﾝﾄ向上し，全ての項目の中で最も高い数値を示しています。

（２）　防災教育を取り入れた「山・海・島」体験活動における感想

○　宿泊活動をしている時は，夜間に災害が起きた時の場合に備えて，夜の避難訓練を行いました。予定をしていた日の夕食の時間に大雨が降りました。雨は何とかやんだものの，こい霧が立ち込めるなかでの活動になりました。雨上がりだったので地面がぬかるんでいて，自分たちが思っていた以上に，大変でした。「うわあ，暗くて前が見えんよ。ライトをつけてみようよ」，「えっ，前が真っ白，霧で前が全く見えない。」夜は，ライトがないと前にも進むことができない体験を通して，私は，小さい子やお年寄りだと，もっと大変じゃないかなと思いました。

○　体験を通して，社会科で学習した「公助・共助・自助」のことを思い出して，自分たちだけのことを考えるのではなくて，家族や地域の方のことを考えることが大事ではないかと考えました。

（３）　防災フェスタでの児童の感想

○　日本が地震大国だということや広島県に土砂災害危険区域がたくさんあることを，まだまだ伝えていき，いざという時のためにみんな備えをしてほしいと思いました。私は，伝えるだけでなく，自分で実際に取り組んで広げていきたいです。

○　たくさん体験して学んだことをまとめてフェスタで伝えたことで，最初よりもっともっと「みんなで命を守りたい！助け合いたい！」という気持ちが強くなってきました。

コミュニケーション能力を育成する

【民泊】北広島町民泊・【施設泊】県民の浜

呉市立蒲刈小学校　校長：恵良　隆久

呉市立下蒲刈小学校　校長　吉本　俊英

異年齢と交流する場面の設定とその効果

１　「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

異年齢と交流する場面を設定し，相手の話を聞いたり自分とは異なる考えに触れたりすることを通じて，自分のことや自分たちが住んでいる地域のことを話してみたくなったり，相手の考えを受けて自分の考えを広げたり深めたりする体験をさせながら，コミュニケーションに関する力を向上させたいと考えています。

また，普段はそれぞれに学習をしている学校の児童同士の交流もねらいの一つです。自分と違う考えや立場にある友達と，互いを認め合いながら助け合ったり協力し合ったりするといった人間関係をよりよく形成していくことについては，様々な機会をとらえて設定していきたいと考えています。この集団宿泊活動でもその機会ととらえて学習を計画しました。これらは，保護者の願いでもありました。

２　「山・海・島」体験活動の概要

（１）目的

○よりよい集団活動を通して，２校の児童の相互の交流を深め，親睦と友情の輪を広げるとともに，学校相互の交流を深める。

○体験活動を通じて，多様な他者とのコミュニケーションを図ることで，

○自然活動を体験させ，今後の生活や学習に生かす。

○健康・安全に留意し，協力や勤労の重要性や集団生活，公衆道徳についての正しいマナーを体得させる。

（２）３泊４日の主な内容

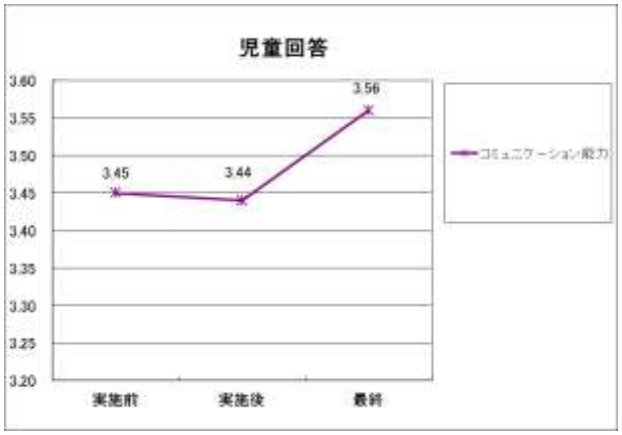
	午前	午後	夜
１日目	北広島町への移動	高校生との雪合戦 民泊受入家庭との対面式	民泊体験
２日目	スキー教室	スキー教室 高校生神楽部による神楽鑑賞	民泊体験
３日目	奉仕活動 出発式に向けた準備	出発式 県民の浜への移動	２校による交流会
４日目	藻塩づくり体験	終わりの会	

３　体験活動の指導の工夫

	事前学習	体験活動当日	事後学習
	コミュニケーションに関係する事前・事後の指導	**異年齢との交流（１～３日目民泊）**	**地域への貢献について考えさせる同年齢との交流（３～４日目地元泊）**
ねらい	○高校生や民泊先家庭の方と交流をすることを通じて，自分の思いや自分達の地域のことを伝えるなど，自分の考えたことを相手に伝える力を高める。 	○高校生や民泊先家庭の方から，北広島町に対する思いや地域のためにできることなどを聞く。 ○話したり聞いたりする言語活動を積極的に取り入れて，コミュニケーションをとることが楽しいと感じさせる。	○北広島町で学んだことと蒲刈の地域の方との交流を関連付けて考えさせ，考え方が多様になったことを実感させる。 ○共通した体験を行い，児童同士の信頼関係が増した状況において，自分の考えを伝えることを通して，コミュニケーション能力を向上させる。
活動内容	○昨年度，体験をしている６年生からのアドバイス ○社会科「わたしたちの国土」と関連させた学習 ○交流会に向けた準備 ○終了後に行う４年生に向けたアドバイス	○高校生との雪合戦・神楽を通じた交流 ○蒲刈出身者によるスキーの指導 ○北広島町と蒲刈・下蒲刈との比較を通した民泊家庭との交流	○３日目～４日目にかけての交流会 ○地元蒲刈での藻塩づくり体験
指導のポイントや工夫	○昨年度民泊の体験をしている６年生に調査して，事前に準備しておいた方が良いことを調べておく。 ○蒲刈と北広島町の地域の特性による人々の暮らしぶりなどを，教科の学習と関連させて考えさせるとともに，話題として準備をさせる。 ○交流会に向けては，それぞれの学校の良さを伝えるために，相手によく分かるようにするためにはどうすれば良いかを考えさせる。	○高校生への質問を行い，高校生の考えを聞き出すようにさせる。 ○神楽という共通体験を行っている蒲刈小学校の児童の取組を紹介し，地域を盛り上げるために行っている共通する目的の他者の思いを聞かせる。 	○行く前と体験後の地元に対する思いの変化に気付かせる。 ○蒲刈小学校が，地域を盛り上げるために行っている神楽の取組と高校生の神楽を見たこととを関連付けて考えさせる。

４　取組による成果

（１）データによる児童の変容



○　体験活動実施後にも，北広島町の方々との交流を継続していくことで，最終（１か月後）の「コミュニケーション能力」の項目が高まっています。

（２）児童の感想

・　民泊家庭の人は，出会いのときから自分達を待ってくれていたんだと感じました。昨年度も同じ家庭に民泊したと聞き，蒲刈小学校の様子を話したり，北広島町での冬のくらしについて聞いたりして楽しく過ごしました。民泊家庭に人も，わたしたちのくらしについて色々質問されたので，一生懸命考えて答えました。一緒に料理をするのがとても楽しかったです。学校に帰ったあと，６年生にそのことを話したら，「なつかしい」といって一緒にお礼の手紙を書きました。さっそく返事をくださり，とてもうれしかったです。

・　民泊家庭の方に「雪かきがしたい」と言ったら，雪かきの仕方を教えてくれて，一緒に雪かきをしてくれました。ぼくたちの体を気づかってくれたり，やさしく話しかけたりしてくれてすごく安心しました。ぼくたちの良いところをほめてくれてうれしかったです。

・　「何のために」と直接聞くことはしていませんが，私たちが「町を元気にする」ために神楽に取り組んでいるように，高校生も町おこしを考えているのではないかと感じました。楽（がく）も舞（まい）もすごく迫力があって，ここまでにするには相当な練習が必要だろうなあと感じました。衣装を着たり大蛇の面をかぶったりする体験では，ぼくたちも神楽をやっていることを伝えると，関心をもってくれました。帰ってから，３月４日の神楽公演の案内状を送りました。あいにく予定が合わずに来ていただくことはできなかったけど，どんな様子だったか問い合わせがあったのがうれしかったです。

・　スキー体験でも雪合戦でも，高校生はスッとぼくたちに入りこんでくれました。ぼくたちは，少人数の中で過ごしているため，初対面に人に話しかけるのがどちらかというと苦手です。高校生は，どんどん自分達に話しかけてくれて，困ったときには親切にアドバイスをくれました。こんな高校生になりたいなあとあこがれの気持ちをもちました。こちらに帰って，まずは，自分から友達や家族，異学年に話しかけてみようと努力するようになりました。

・　北広島町での雪のあるくらしにくらべて，蒲刈に帰ってきてからの景色に改めておどろきました。藻塩体験は初めてではないけど，この海に囲まれた自然の中でできる特産物だと思いました。寒かったけど，塩水を煮詰める火があたたかかったです。北広島町の民泊家庭も，とてもあたたかかったのが心に残っています。

地域を理解し，郷土を愛する心を育む

世羅町立甲山小学校　校長：池岡　妙子

世羅町立せらひがし小学校　校長：延安　浩　【施設泊】世羅の宿ひがし

地域社会を担う人材育成を目指した合同実施

１　「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

甲山中学校区の甲山小学校とせらひがし小学校の２校で合同実施をすることで，中学に向けての人間関係の基盤となる関係づくりやお互いの良さを知って仲良くなることを目的としました。

また今年度からは，廃校になった学校をリノベーションした地元の宿泊施設を拠点とし，世羅町内の施設を活用した学習を展開することで，社会科・理科・総合的な学習の時間等での学習と関連を持たせ，世羅の自然や歴史，世羅の人々の生き方に触れるふるさと学習としての目的も持たせました。これらの学習を通して，ふるさと世羅を知り，世羅に貢献できるような児童に育てていきたいと考えています。

２　「山・海・島」体験活動の概要

（１）目的

○　同じ中学校区の同級生と集団生活を行うことを通して，協力することの大切さを学び，仲間意識を高める。

○　世羅町内の自然や文化，人に触れ，郷土愛を育むとともに，体験活動を通して豊かな感受性を養う。

○　日常とは異なる環境での生活を体験することで役割意識を持ち，自立心や主体性を養う。

○　集団生活を行うことを通して，コミュニケーション能力を育てるとともに，体験活動を通して豊かな感受性を養う。

（２）３泊４日の主な内容

	午前	午後	夜
１日目	２校合同，出会いの会	交流プログラム （レクリエーション）	星空観察
２日目	歴史学習・勾玉づくり	タラヨウのはがき作り 野外炊事（カレー作り）	スタンツ練習
３日目	早朝座禅（修善院） ランニング（世羅高） 梨狩り（大豊農園）	せら夢公園 （オリエンテーリング）	キャンプファイヤー
４日目	竹細工体験 （弓矢・水でっぽう作り） 活動のふり返り	解散式	

３　体験活動の指導の工夫

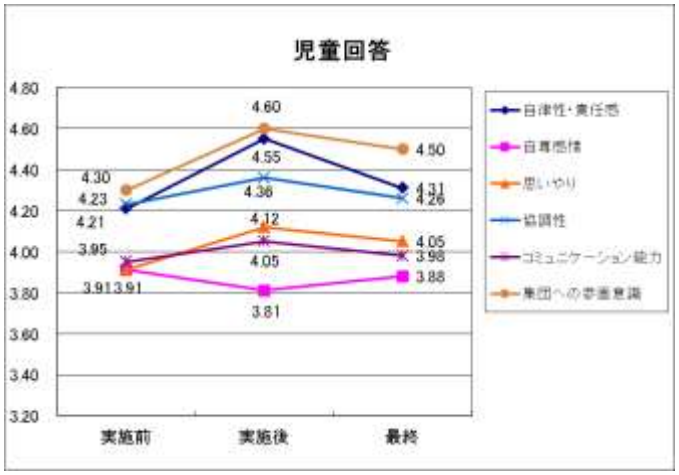
	体験活動当日	体験活動当日
	目指す中学生の姿を２校で共有化	**地域資源の活用**
ねらい	○同じ中学校に通うことになる２校の児童が，中学生になった時に円滑に人間関係を形成し学校生活をおくることができるよう，人間関係の基盤を形成する。	○世羅町内の資源を活用して体験活動をすることで，地域のよさに気付かせ郷土愛を育むとともに，地域に貢献しようとする心を養う。
活動内容	○学校の違う児童による班編成 ○プログラムごとのメンバーの再編成	○廃校になった学校をリノベーションした地元の宿泊施設への宿泊 ○地域の指導者を招聘した体験
指導のポイントや工夫	○３泊４日を通して，全員が相互に関わり合いをもてるような班編成にする。 ○体験活動の内容について，競争したり優劣をつけたりする内容ではなく，協働して目的を達成したり，生じる感情を共感したりできる内容にする。 ○体験活動後に，地域に貢献するために行っている活動について，児童同士が連絡を取り合いながらお互いの学びを共有できるようにする。	○地域を開拓しよさを見つけ支えてきた人々を活用することで，地域のよさを児童にわかりやすく語ってもらうことができる。 ○現在ある地域の姿がさまざまな人々の努力の結果であることに気付かせることで，自分も地域のために何ができるか考えさせるきっかけとする。 ○体験活動での学びを生かして，地域のために，花いっぱい運動やクリーン作戦を行う。 ○地域の自然や文化，人との関わりを通して，自分たちが暮らす地域の魅力を再発見させる。

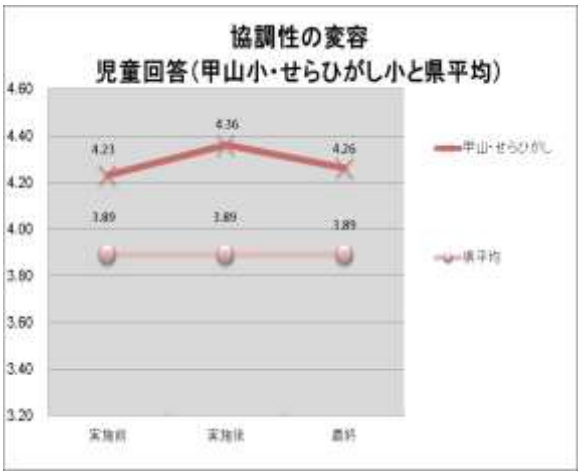
世羅子ども議会

世羅町の未来を担う中学生のふるさと学習（キャリア教育）の一環として，「議会の仕組みを学ぶ」「郷土を愛し，地域への関心を高める」「生徒の表現力の向上」を目的として行っている。町内の３中学校から生徒を代表し，中学生議員 12 名と議長１名の計 13 名が，観光，福祉・医療や教育等の行政施策についての質問を行う。

４　取組による成果

（１）データによる児童の変容





○　児童回答のアンケートが，県平均よりも高い数値となっています。特に協調性の項目において実施前に比べ直後の数値が高くなっています。

（２）児童の感想

・　私たちは同じ中学校へ行きます。この体験活動を通して，新たな友達ができました。はじめは，話すのがやっとで，手をつなぐこともはずかしかったのですが，一緒に活動をすることで，少しずつ相手のことが分かり，話をすることができるようになりました。

・　４日間一緒に過ごすことで，友達のよさをたくさん見つけることができました。仲良しの友達ができたので，これからも二つの学校でできることは一緒にやってみたいです。

・　最終日，友達と別れるとき，とてもさみしい気持ちになりました。この４日間でとっても仲良くなったので，もっと一緒にいたいなと思いました。

・　体験活動の前は，「自分がすんでいる世羅のことなんて，よく知っているに決まっているじゃん。」と思っていました。だけど，この 4 日間で，初めて見ること，初めて聞くこと，初めて体験することがたくさんありました。どの経験も，ますます世羅が好きになり，自慢に思えるものばかりになりました。

・　「クロカンロード」や「座禅」「大豊農園で食べた梨」は地域を愛する気持ちからたくさんの人がさまざまな工夫をして，作り上げてこられたものだと分かりました。どの方も，世羅をアピールするため，世羅をさらに住みやすい町にするために自分にできることを一生懸命取り組まれていました。

・　世羅の宿ひがしのみなさんには大変お世話になりました。私たちが元気に過ごせるように，おいしいご飯を作ってくださったり，困ったことがあったときにはすぐに助けてくださったりしました。とても心強かったです。世羅に来た人を温かく迎えてくださる優しさを感じました。

地域を理解し，郷土を愛する心を育む

三次市立三和小学校　校長：飯田　直美【施設泊】広島ふるさと村　みわの里

体験的に学ぶ意義

１　「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

三和小学校には，開校時の約４０年前に，「気宇広大な子供の育成をめざし，たくさんの経験や学びをしてほしい」という願いのもと，地域の方が「学校の森をつくる会」を結成され，会費を出し合って造成や植樹された「学校の森」があります。この地域資源を，地域を題材とした生活科・総合的な学習の時間を活用し，学び方やものの考え方を身に付け，問題解決や探究活動に主体的，創造的に取り組む態度を養いながら，三和に住む人々の思いや生き方から学び，三和町の自然への関心を高め，ふるさと三和への愛着を深めています。

「山・海・島」体験活動を主に学校周辺の地域で実施することとして，誰もが安心・安全に住める町をテーマにした総合的な学習の時間と関連を図ったり，「学校の森」を活用した自然体験活動を教科等と関連付けて取り入れたりするなど，地域での体験活動を重視した取組としました。

２　「山・海・島」体験活動の概要

（１）目的

○三次市や三和町の人・自然・産業や文化と歴史に触れ，三次市や三和町に愛着を持ち，地元を誇りに思う心情や態度を培う。

○自然体験活動等を通して，自然に対する関心を育てる。

○共同生活を通して，自主性と責任感，思いやりの心や協力の大切さを感じさせる。

○自律の心とよりよい人間関係をつくろうとする意欲と実践力を培う。

（２）３泊４日体験活動の主な内容

	午前	午後	夜
１日目	開村式 目標設定（ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ書道）	スポーツ吹き矢 福祉体験	星空観察
２日目	森林観察ネイチャーゲーム〔理科〕 森林の働き〔社会〕	特別養護老人ホーム訪問 調理実習	スタンツ練習
３日目	和牛飼育体験 折り紙	カヌー体験 常清滝見学	キャンプファイヤー
４日目	大土山登山	閉村式	

３　体験活動の指導の工夫

	日常的な活動 （全校での取組）	体験活動当日 （第５学年の取組）	
	三和をテーマにした全校での学習	**安心・安全に住める町を実感する体験活動**	**地域の思いを実感する体験活動**
ねらい	○地域をテーマにした生活科と総合的な学習の時間によって，三和町に愛着を持ち，地元を誇りに思う心情や態度を養う。	○誰もが安心･安全に住める町にするために必要な努力や工夫を知り，自分たちができることを考え，創造的に取り組む態度を養う。	○三和に住む人々の思いや生き方から学び，三和町の自然への関心を高め，ふるさと三和への愛着を深めて，地域のためにできることを考えて行動する実践力を高める。
活動内容	○「学校の森」を生かした活動（全校） ○「学校の森」探検（１年） ○町探検（２年） ○三和特産「成広谷とうふ」についての学習（3 年） ○美波羅川を知り，美しい自然を未来に残す取組（4 年） ○三和の夢追い人から学ぶ（6 年）	○三和町内の特別養護老人ホーム喜楽園での高齢者の方との交流 ○社会福祉センターの見学 ・老人体験 ・地域のお年寄り（デイサービス）との交流 	○地域の方による指導 ・みわスポーツクラブでのスポーツ体験 ・「学校の森」を活用したネイチャーゲームの指導 ・学校近くの「ふるさと村みわの里」への宿泊 ・和牛飼育体験 ・星空観察の指導 ・大土山登山（約８００ｍ）
指導のポイントや工夫	○三和町に関心をもち，三和町のために行動したいという意欲を引き出すことを目的とした生活科と総合的な学習の時間を設定する。 ○子供たちの“学びたい”，“～したい”を引き出すために，経験や知識をもとに，活動後の自分達の姿の予想を立てさせる。	○３泊４日の振り返りにおいて，老人ホームへの訪問の成果と課題をまとめ，次の訪問計画を立てる。 ○高齢者にとっての安心･安全を考える際は，経験したことと既有の情報とをつないで，ウェビングを活用して考えさせる。	○地域の方の取組に係る話だけでなく，その取組を通しての地元への願いや思いについても話題にする。 ○お礼の手紙を書く際は，児童の地域に対する思いや，実践してみたいことを書かせ，ねらいに迫るように指導する。

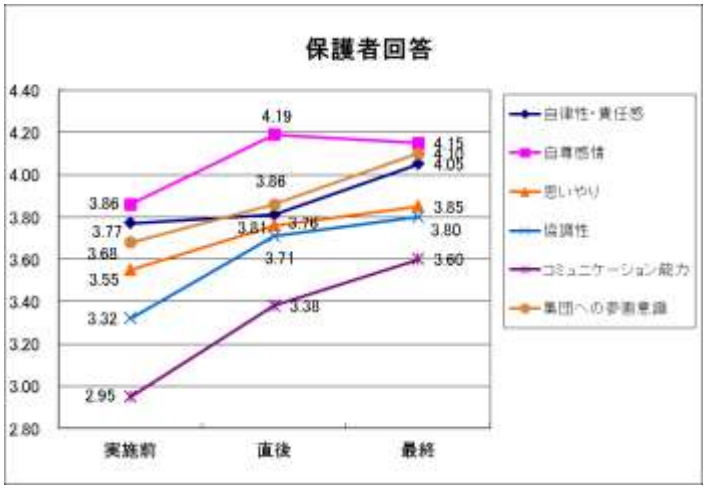
第５学年の取組から，他学年が自らの取組を見直すきっかけになり，自分の学年でも“～したい”を引き出すことができる。

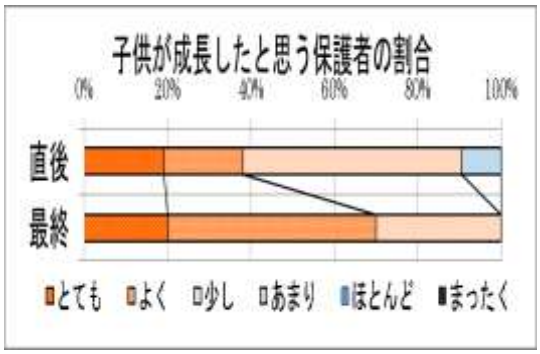
事後学習（第５学年の取組）

○学習発表会で，三和の魅力を伝える。
○喜楽園在園の方に年賀状を出し，交流を継続する。
○安心・安全に生活できるようにするために，自分たちにできることや町にしてほしいことなどをまとめ，ホームページで発信する。

４　取組による成果

（１）データによる児童の変容





○　保護者回答のアンケートが，県平均よりも高い数値で推移しています。全てのアンケート項目において実施前に比べ１か月後の数値が高くなっています。特に「自尊感情」に関する項目は，実施前と実施後を比較すると 0.33ﾎﾟｲﾝﾄ向上し，高い数値を示しています。

（２）児童の感想

<u>お年寄りとの関わりを通じた児童の感想</u>

・　私はお年寄りのそばにいるのが，「楽しい。」と，初めて思いました。それは，総合の学習で，会話をする時のコツを習ったからです。この学習の中には，しりとりの法則や，どうして？の法則があります。しりとりの法則というのは，言葉の中の大切な文字だけ聞き取って言葉をつくることです。この法則のおかげで，お年寄りのそばにいるのが楽しく感じました。

・　私は，もともと人と会話をしたり，人に何かを説明したりすることがうまくいきませんでした。だから，喜楽園でお年寄りと接することが不安でした。だけど，今は違います。それは，今，お年寄りとカルタをすることができたからです。この時，お年寄りのそばにいるのが楽しかったので，人と話をしたり，人に何かを説明したりすることがうまくなったのではないかと感じました。私は，会話の仕方や話題が思いつかないだけで，話をするのがきらいなわけではありません。この体験を通して，これから会話をする時のヒントを学ぶことができました。

・　お年寄りの人がいちばん喜ぶのは，お話をすることです。手を握ったり，かたをもんだりしてあげることもとても喜ばれました。だから，私はお年寄りの人とたくさん交流をして，少しでも楽しく暮らせるようにしたいと思いました。今，日本は子供よりお年寄りの人数が増えています。だから，私たちが支えていくことが大切だと思います。そして，私たちがお年寄りになった時でも，子供たちや若い大人が支えてくれるような社会にしていきたいです。

<u>学校の森の樹木の植樹や樹木の手入れをした時の児童の感想</u>

・　これからいろんな花や実が付くのを想像する心が明るくなります。成長していく様子をこれからも見ていき，学校の森を大切にしていきたいです。そして，自然を大切にする活動を，地域の活動にも広げていき，三和町の自然も大切にしていきたいです。

安全体制を一層充実させるための教育委員会の指導の工夫

坂町教育委員会

1　坂町における「山・海・島」体験活動の概要

児童が安全に安心して，長期集団宿泊活動に行き，思う存分体験活動に取り組むことができるように，また，保護者が安心して体験活動に行かせることができるように，小学校において安全計画を作成している。

坂町教育委員会では，提出された安全計画に基づき，体験活動の内容が効果的に計画してあるかを確認し，参加者の実態に応じた配慮等があるか，学校の方への指導を行っている。

また，保護者との学校とが健康状態等の確認のための事前調査を行い，特に配慮が必要な場合や確認の必要がある場合，また保護者が希望をする場合に，保護者と担任とが直接面談を行うこととし，必要に応じて，養護教諭も面談に加わり，丁寧に対応することで，児童や保護者の不安を取り除くようにしている。

坂町立小中学校の管理及び学校教育法の実施に関する規則には，野外活動届を提出する際には，「あらかじめ教育委員会と事前協議をした上で」という表記を加筆した。

これによって宿泊を要する学校行事実施時，前年度の予算編成時期までに，学校から報告してもらうようにして，安全計画に係る補助金や扶助費を予算計上に反映できるようにした。これによって，次年度の予算編成までに，学校の野外活動の内容を把握して，安全に関する費用を予算計上できるようにしている。

【学校の安全計画】

8　宿泊学習の安全計画
（1）参加児童の身体状況
・保護者への健康状況調査及び宿泊学習前検診
（2）宿泊地の衛生状況
・宿泊先及び食事施設の衛生状況については問題なし。
（3）その他安全に関する準備事項
・学習中の傷病に備え，養護教諭が同行
・宿泊地周辺の救急病院等の把握
・宿泊先の防火管理体制の確認
・緊急時の連絡先一覧の持参

8．安全計画
（1）参加児童の身体検査状況
○保護者からの健康調査票にて把握する。
（2）旅行地の衛生状況
○宿泊施設を通して確認をする。
（3）その他安全に関する注意事項
○保護者に対して説明会を開く。＜7月6日（水）＞
○引率者の事前打ち合わせ会を開き，係分担，事故防止について万全を期す。＜8月5日(金)＞
○児童に宿泊学習のしおりを配布し，集団行動などの練習を重ねておくことで，事故防止を図る。

8　宿泊学習の安全計画
（1）参加児童の身体状況及び健康安全の指導（体調の把握,けがの予防,衣服の指導等）
（2）宿泊地の衛生（宿泊場所の衛生状況等を把握しておく）
（3）現地での安全指導・交通安全指導（下見，危険箇所の把握，歩行・横断の指導等）

【安全計画や保護者への説明会等の内容に基づく坂町教育委員会の学校への確認事項】

・安全計画に基づく説明について
・アレルギー等への配慮の必要な児童への対応について
・個別の対応を丁寧にすることについて

２　安心して体験活動に臨むことができるようにするための教育委員会の取組

	内容	効果
体験活動に係る安全計画の作成	○学校の安全管理の内容を充実させる教育委員会の支援体制 ・学校の安全計画をより明確にさせるための指導と助言 ・学校への聞き取りの実施 ○安全計画の項目の整理 ・参加児童の身体の状況の確認 ・宿泊地の衛生状況の確認 ・個別対応が必要な児童への支援等の確認	○学校の取組の変容 ・安全計画に基づく保護者への事前説明会の実施 ・アレルギー等の配慮が必要な児童，個別対応が必要な児童への指導の充実 ・保護者への事前説明会の内容の充実 ○安全計画に基づく内容での連携の充実 ・教職員と養護教諭との綿密な連携 ・安全計画に基づく取組や宿泊地の衛生状況の報告，アレルギー等の個別の対応についての内容を説明するようになった。
予算化による安全体制の充実	○体験活動中の代替養護教諭の派遣 ○バスの借上補助	○退職した養護教諭の学校への派遣 ・退職した養護教諭を，期間を限定して，町の非常勤講師として雇用をしている。 ・宿泊体験活動に養護教諭が引率をする場合，養護教諭が不在の状況を作らないようにする。 ・前年度からの準備による年間を見通した計画を立てて取り組むことが可能となった。 ○児童の安全な移動 ・児童が安全に体験活動先まで移動することができる。
その他	○必要に応じて，緊急時に対応するための公用車の貸出	○緊急時の対応での公用車の利用 ・緊急時の対応についての教職員の意識向上 ・学校体制としての危機管理意識の向上